

一の宮巡拝

一の宮巡拝会 発行人 関口行弘

事務局：兵庫県川西市大和東2-13-10 創房関宮(有)内
 電話：072-791-5158 FAX：072-791-5159
 E-mail：junpai@sekinomiya.com

一の宮巡拝百万人運動と橋三喜

諸国 68 カ国の、一の宮を最初にすべてお参りしたのは橋三喜である。橋三喜は寛永 12 年 (1635) 肥前国 (現長崎県) 平戸の「平戸七郎宮」の宮司の息子として生まれた。そして、延宝 3 年 (1675) 40 歳のおり、諸国の一の宮巡拝の志を立て平戸を出立、23 年間をかけて巡拝の志を完結した。情報が乏しい時代に、徒歩で巡拝を完拝された、そのご苦労には、現在の情報や交通の便利になった我々には想像に難くない。

今年から、東京、京都、大阪にある旅行会社が「一の宮めぐりの旅」と題して、旅行者を募り日帰りや 1 泊 2 日のバスツアーが企画されている。しかしこれまで「一の宮巡拝」は多くの人達には滲透していないよう各旅行会社は人集めに苦心している。誰もが、「一の宮巡拝」を「四国遍路」のように認知して、気軽に一の宮めぐりをされるのはいつになるのか。

今から約 20 年ほど前「一の宮巡拝百万人運動」を提唱されたのは、椿大神社の故山本行隆宮司と一の宮巡拝会の創立者の故入江孝一郎先生であった。当時の日本は、バブルが崩壊して経済は低迷、全国的に活力が無く、閉塞した元気の無い社会情勢であった。そういう状況を打破し「日本を元気にしよう。巡拝すると人は清められ元気になる。」と入江先生は口癖のように言っておられた。

今年、お彼岸を期に武藏国一の宮氷川女体神社の近くにある、橋三喜のお墓にお参りした。300 年以上の風雪に耐えた墓石が初秋とはいえ、太陽の陽差し

が強く眩しく映った。墓石の正面には「一樹靈神」と刻まれ、側面には「橋美津興志」の文字が見えた。その他にも沢山の文字が認識できたが、残念ながら即座には解釈できなかった。

さて、橋三喜は全国の一の宮を巡拝して見聞記『一宮巡詣記』を著したことでも知られる。原本は 13 卷あったが、ほとんどが失われ、享保 7 年、垂加神道家岡田正利が上下 2 卷にまとめた『一宮巡詣記抜粹』が今日に伝わっている。「季刊『悠久』第 84 号の記事中に

中田嘉種著 橋三喜と『一宮巡詣記』、発行者鶴岡八幡宮悠久事務局、発行所「おうふう」によれば、三喜が故郷平戸を出発して南九州の旅 (1675 年) に出てから江戸へ向かう (1697 年) 最後の旅の概要が記されている。

橋三喜の『一宮巡詣記』の原本がほとんど失われている今日では、三喜が巡った当時の一の宮の全貌を知るすべは無く、これ以上の研究は困難であろう。このような状況の中

一の宮巡拝の先駆者橋三喜の偉業を顕彰し、さらに調査できればと願う。是非、小さな情報でもお持ちの方は当巡拝会にご一報頂きたい。また、各神社には古来より伝わる資料が所蔵されていると思う。橋三喜について書かれた記述があれば是非紹介頂きたい。

橋三喜を顕彰し再び一の宮巡拝のブームが起きることを願っている。

一の宮巡拝会 代表世話人 関口行弘

入会を希望する方は各事務局へご連絡ください。

一の宮巡拝会本部事務局

〒666-0111 兵庫県川西市大和東2-13-10 創房関宮(有)内
 電話：072-791-5158 ファックス：072-791-5159
 E-mail：junpai@sekinomiya.com

一の宮巡拝会東京事務局

〒111-0055 東京都台東区三筋1-12-12 (株)アルプス・タカス内
 電話：03-5823-3901 ファックス：03-3865-2135
 E-mail：shio0369@crocus.ocn.ne.jp

入会金・会費等お振込先：郵便振替 (大阪) 00990-5-81515

伊勢神宮 お白石持行事

第六十二回神宮式年遷宮『内宮』お白石持行事に奉仕して

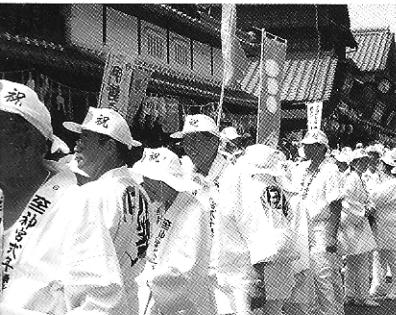
東京地区世話人 岸本 鐵夫



エンヤー!、エンヤー!。伊勢のおかげ横丁に力強い掛け声が響きます。

太い真っ白な綱を千人近い一日神領民の方々と声を合わせ、地元伊勢市民の木遣りに合わせて綱を引く事が出来ました。

「お白石持行事」は言うまでもなく、(一連の神宮式年遷宮行事)のひとつで新しくなったご正殿の御敷地に宮川より拾い集めた「お白石」を奉獻する行事です。内宮は7月27日より8月12日の金、土、日、月。外宮は8月18日より9月1日の金、土、日、月の27日間で執り行われますが、私は8月4日(日)の内宮と9月1日(日)の外宮に奉仕致しました。



エンヤー!奉曳する岸本鐵夫(中央)

神宮式年遷宮の「お木曳」「お白石持」の奉仕は永らく伊勢市民のみ許された特権と言われ、伊勢市民にとっては特別な奉仕活動ですが、第六十回式年遷宮より全国の崇敬者の為に一日特別神領民として開かれ、奉仕が出来るようになりました。

奉仕活動は今や、伊勢市民のおもてなし奉曳と言われ、無形民俗文化財と成っております。私も内宮お白石持行事に奉仕させて頂き、8月4日(日)紀伊国一宮伊太祁曾神社の一日神領民となって、午前結団式午後の奉曳、奉獻に参加致しましたのでご報告致します。

早朝名古屋集合の為、前日名古屋に宿泊しバス6台に分乗し一路伊勢に。神宮会館の結団式を行い細部の行事説明、今回は陸奥国一宮塙籠神社の氏子の皆様と行動を行うとの説明を受けました。



活気づく木遣りでエンヤー!

白装束の支度を整え、首より奉曳の位置の目印の数玉木札を下げ、定刻におかげ横丁の集合場所に整列、合図を待つばかりです。奉曳に際しては、多くのボランティアが活動され①接遇部の給水の熱中症対策、ふるまい広場での接待、②木遣り部の木遣り隊、③奉

曳部の補助、警備といったきめ細かいサポートにより円滑に奉曳出来るよう準備されており初体験の一日神領民にとっては大助かりでした。

いよいよ、奉曳、奉獻のお白石持行事が始まり、地元民による木遣りが威勢よく皆を奮い立たせるように響きます。長い綱に引かれた奉曳車(塙籠神社のお祭りに使用)が特別に用意され、約千名が四列になって奉曳し、宇治橋の脇までエンヤー!、エンヤー!とゆっくり移動致しました。

宇治橋を渡ると橋脇に奉仕団の皆様が白布を、一枚ずつ手渡してくれ、木箱に積まれている白石に案内して下さいました。大きさ持ちやすさ等考慮をし、一つを選びそっとお白石を白布に包みました。

参道に入り、準備されていた手水を使い、神職のお祓いを受け、いよいよ、新たに建てられたご正殿へ、



新正殿への石段を上る奉獻者

おかげ横丁の街中を奉曳

の香りに包まれた
佇まいに自然にこ
うべが下がり幅広
の石段を一步一歩
歩み御垣内に歩を
進めました。

新しく建てられた
神明造のご正殿は

じめ東宝殿、西宝殿等も夏の強い日差しに映え一層の輝きを帯びて常若の意味合いが増すようでした。持って行ったお白石を左棟持柱近くに置き一礼、右手に垣間見るご正殿を拝み御遷宮の大きな意味合いが肌身に感じられる意味深い時間でした。その後、従来の正宮に参拝し、おもてなし広場にて一息いれ記念品の奉曳車のミニチュア品を受け取り帰路につきました。

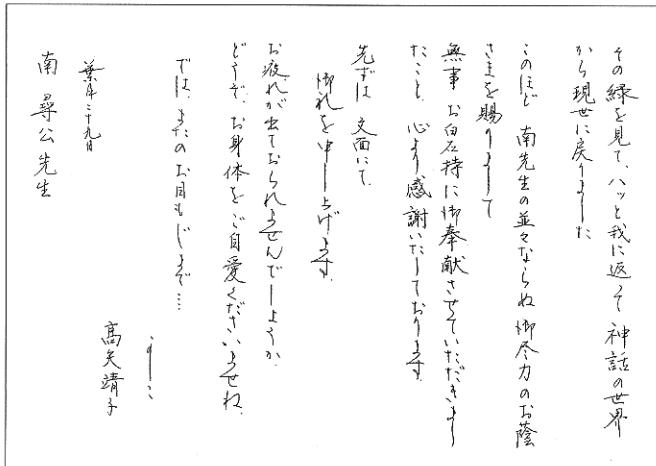
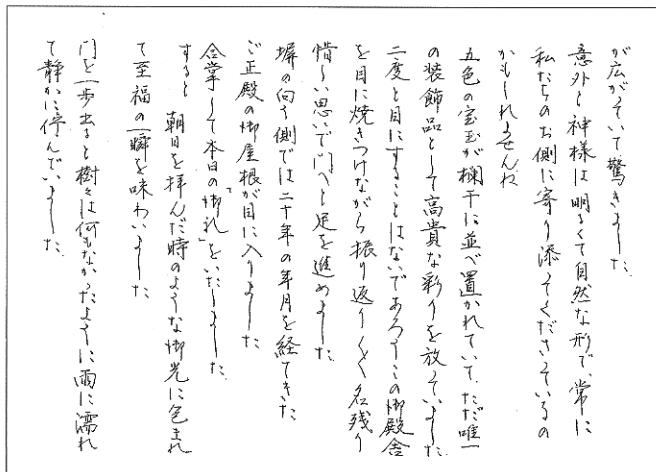
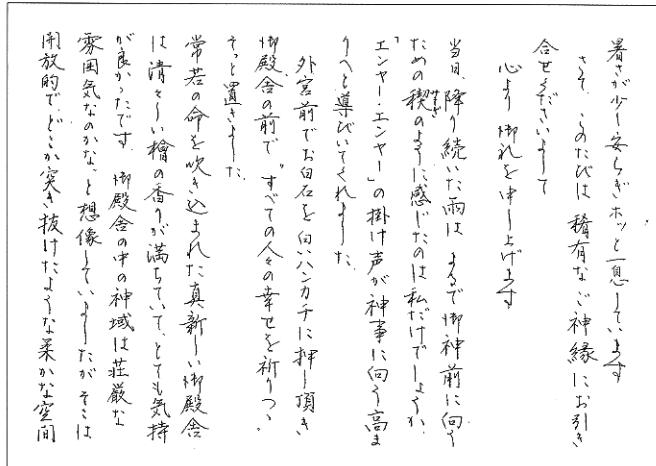
第六十二回式年遷宮は平成17年5月の山口祭から始まり、主だった祭典は約30余り、足掛け10年に亘り、一般的の奉仕が出来るのは御木曳(一次、二次)とお白石持行事だけです。

この二つの行事に奉仕でき、又宇治橋渡り始め式にも参加出来、又歴史的瞬間を体験出来たのも、巡回会の多くの方々のご助言、ご指導のおかげと感謝しこの紙面をお借りし御礼申し上げる次第です。

『外宮』 お白石を奉獻

平成25年8月24日(土)～25日(日)

外宮のお白石奉獻は、伊勢地元の中島豊流団の団員として140名が参加できました。早朝参拝では大雨でみそがれて清浄な心身で奉獻ができました。また参加者の高矢様から下記のような礼状が南先生に届きました。素晴らしい感性が伝わるお手紙ですので、ぜひご一読下さい。



中島町豊流団 子ども木遣り



中島町豊流団のお白石奉獻車



神宮会館宴席で挨拶する南尋公先生

外宮奉獻 お白石持行事に参加して

鶴田 一邦



昨年、塩原様から「伊勢神宮の式年遷宮のお白石持行事に参加しませんか」とのお誘いの電話があり、二つ返事で「お願ひします。」と即答して1年がたちました。

以前、巡拝会で伊勢神宮に行ったことがあり機会があれば何度でも「行ってみたい」という気持ちがあったからです。特に今回は特別に神領民として20年に一度のお白石持行事に参加できるからです。

前日からの逸る気持ちを抑えきれずに、睡眠不足を抱えながら、熊本発6時8分発の新大阪行き新幹線で出発しました。新幹線のなかでおにぎりを食べながら、「伊勢まで列車の乗り継ぎは大丈夫かなー」と何度も確認し「待ち合わせ時間に間に合うかなー」と不安になりながら伊勢市に到着し、神宮会館に急ぎ向かいました。途中、月読宮、猿田彦神社を通り、不安を抱えながらも無事、神宮会館に到着。ここで塩原、岸本、村上氏等と半年ぶりの再会でした。神宮会館には多くの参加される方が待機されており、挨拶もそこそこに法被を受け取り、着用して結団式の会場、神宮相撲場へと赴むいた。

その後、伊勢参りの旅人は参宮する前に二見浦の興玉神社で禊を行なうのが慣わしである事に習い、私たちも二見浦の沖で取れた海藻「無垢塩草」で作られた大幣で祓い清めを受けました。浜参宮です。蛙の手水で手と口をすすぎ願い事をしました。「内容は内緒です。へへへ」

お白石持行事に参加してよろしいという「浜参宮の証」の木札を頂き、夫婦岩を望み皇居遙拝所で拝礼し龍宮社にも参拝してバスへと移動、これで初日の行事は終了しました。こんばんは楽しみの懇親会です。不謹慎かな。

2日目は法被に着替え、朝食を取り、7時にホテルを出発。奉曳が行われる宮町へ。そこはお白石を積んだ奉献車が準備されており、奉献車を外宮まで引いて行きます。会場までのバスの中で奉献車を引く場所が示された三つの玉の付いた木札を渡されていて、私たちは前から三番目の場所での奉曳でした。。

奉献車から曳綱が延ばされ、説明を受け、いよいよ出発です。曳綱を上下に揺らしながら「エンヤー！、エンヤー！」と声を出し、気持ちを高めて進みます。途中、参加された多くの方々と「東京からとか岐阜から」とか交流をする楽しみもありました。奉献車を外宮の北御門まで引き、街頭には見学の人、近所の人など多くの方の激励を受け約40分の行程です。

到着後、手水をして、白布をいただき、お白石を白布で受け取り、お祓いを受けて、いよいよ新しいご正殿が建つ御敷地に進みます。ご正殿はまだ神様がお移りになつていません。その為、行事に参加する私たちは立ち入ることができます。

現在のご正宮前を通過すると隣に白木の真新しい神殿が並び、感無量です。御垣内に進みお白石をご正殿の建つ瑞垣内に置きました。

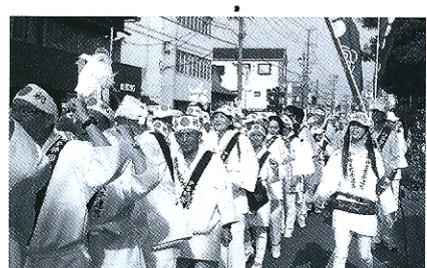
何処に置いたか分かるようにご正殿の近くに置いたのですが、「後からきちんと整理するから何処に置いたか分からなくなるよ。」と言われて「がっかり」でも、今後はご正殿には入れないので「また、20年後に会いたい」と記憶に留めておきました。

帰りに現在の正宮と新しい正宮が並び、荘厳な寄り難い神秘な聖域を心の中に受けとめ、何度も振り返り、「式年遷宮に参加したのだなー」との思いを新たに次の参宮を楽しみに聖地を後にしたのです。

外宮前駐車場の奉献車の前で、数多な思いを話しながら記念写真を撮り、バスにて神宮会館に戻り着替えした。解散式に臨み、巡拝会の皆さんに会えるのを楽しみに私たちも解散しました。

私は村上さんと内宮にお参りに行き、いろいろな所が真新しく作り変えられており「新しい住まいを喜んでくれればいいな」などと思いながら神宮を後にしました。

お伊勢様のパワーを頂き、私自身も新しく生まれ変わった気がした2日間でした。



出雲大社 平成の大遷宮

[60年に一度の盛儀]

大國主大神が御仮殿から御修造のととのった御本殿にお還りいただく本殿遷座祭が平成25年5月10日行なわれました。巡拝会からは6名が尊い遷座祭(瑞垣内)に参列させて戴きました。朝から雨模様の一日だったのに午後4時の受付頃から雨が上がりしました。厳聖な時間が肅々と和がれ遷座祭は滞りなく終了しました。

祭典終了まもなく轟音と共に激しい雨が祭典終了を待っていたかの様に降り出した。偉大なる大神の大御力を感じずには入られない遷座祭でした。

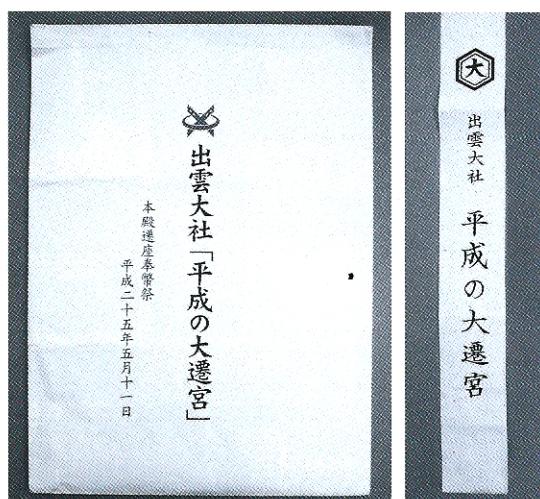
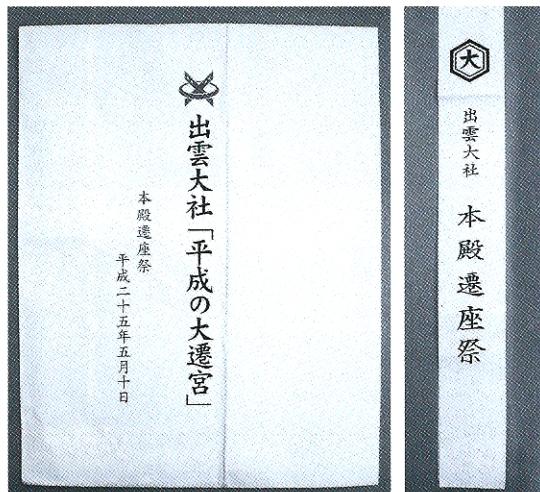
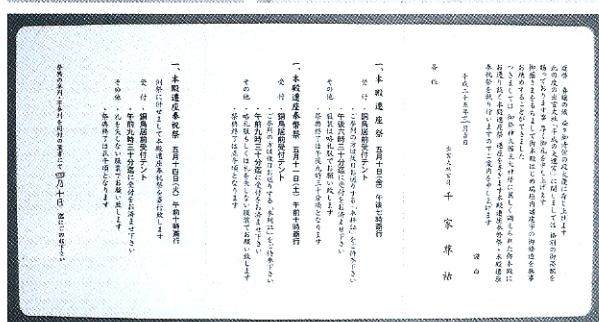
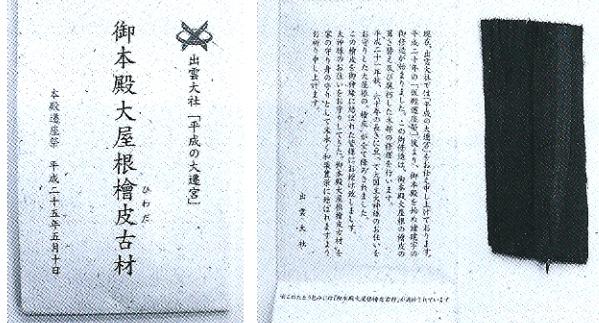
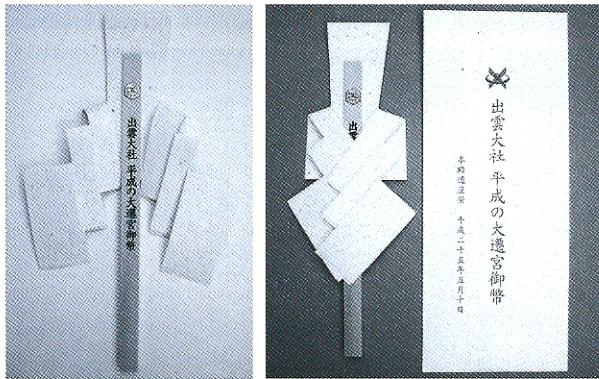
翌5月11日は天皇陛下のお使いである勅使の参向により、御幣物が奉られる本殿遷座奉幣祭が午前10時から行なわれ参列させて頂きました。当日の記念となるものを写真でお見せいたします。特にお屋根の檜皮の一片は誠に尊いものと存じます。



出雲大社瑞垣内を祓社前から望む、右より御本殿・(日章旗)御向社・天前社の神域



美しく葺き替えられたお屋根の出雲大社御本殿(後方より)



出雲大社 本殿遷座祭



出雲大社 平成の大遷宮

報告 一の宮巡拝会関東ブロック第7回交流会

目的地：陸奥国 石川・石都古和氣神社～馬場・都都古和氣神社～八槻・都都古別神社

期 日：平成25年3月23日(土) 日帰り

目 的：①一の宮巡拝(正式参拝) ②東日本大震災復興祈願 ③大祓詞唱和

本年の関東ブロック交流会は陸奥国(福島)三社、正式参拝での東日本大震災復興祈願を主旨として巡拝を行いました。

文章ではなく写真を見る事によって、当日の皆様の感動を思い起こしていただきたいと願っています。

事務局



石都古和氣神社本殿隣地
吉田英高宮司様と共に記念写真



観光バス



参道から階段を登ると本殿



吉田宮司様の修祓



今回案内担当村上世話人



本殿への参道・盤座



吉田宮司様から神社の由緒を拝聴



神氣漂う境内と参道



角田和弘宮司様より神社の説明



参道の入口階段を登る会員



大震災復興祈願祝詞を全員で奏上



当会作成の復興祈願祝詞



修祓で祭式開始



馬場・都都古和氣神社拝殿前での記念写真



八槻・大宮 都都古別神社
「天皇・皇后両陛下からの幣饋料下賜札」と拝殿



神社境内入口鳥居



子供とたわむれる珍しい狛犬



関口代表 玉串奉奠



都都古別神社拝殿(手前)と御本殿



参加者の代表 河村さん 玉串奉奠



修祓を受けて正式参拝



八槻純子宮司様から神社の由緒拝聴



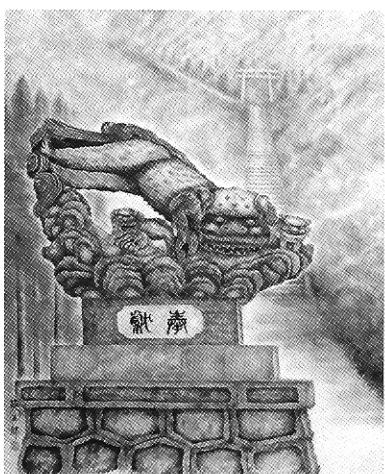
直会の御神酒をいただく

ミニ個展 一之宮の狛犬

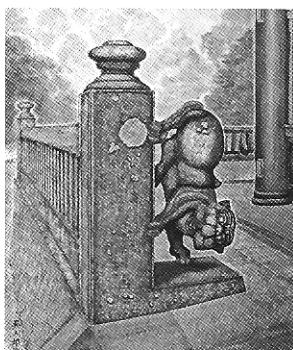
平成25年4月25日(木)～30日(火)まで東京都美術館2階第一展示室に於いて、本多英五郎氏(巡拝会会員)の『ミニ個展 一之宮の狛犬』が発表されました。



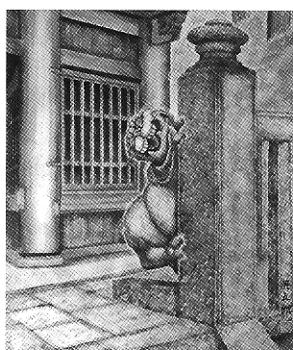
陸奥国 都々古別神社 子供とたわむれる狛犬



陸奥国 石都々古和氣神社 子供とたわむれる狛犬



津軽国 岩木山神社 狛犬 左



津軽国 岩木山神社 狛犬 右

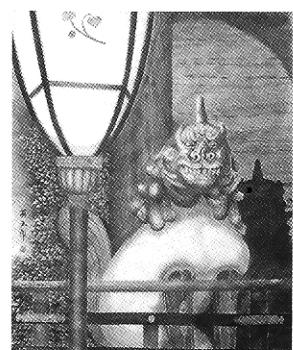
私は全国108社の一の宮を巡拝し、写真撮影と水墨画作成をおこなってきました。墨美展にはこのうち5点が展示されました。3月下旬には、関東ブロック一の宮巡拝会の皆さんと同行し、福島県の石川郡・石都々古和氣神社、棚倉・馬場の都都古和氣神社、八楓・大宮の都々古別神社に参拝致しました。グループは35名でした。

今度出品した作品のうち、2点は八楓都々古別神社と石都々古和氣神社の狛犬で、参拝の折、グループの皆さんに案内状をお渡しして、興味がある方が来てくれるだろうと思いました。私は三社参拝後、別行動で佐渡の一の宮と上越市の一の宮を訪れました。

全国に108社の一の宮がありますが、私は一の宮に3年間隔で巡拝し、各神社毎に約200枚程度の写真を撮り続け、記録写真として編集し、各神社に奉納しています。又、これらのデジタル写真も代々木にある神社本庁にもお届け致しました。

私が一の宮に参拝するきっかけとなったのは、私が水墨画を習い始めたとき、四国の八十八ヶ所の寺院は、何人かの方が絵を描いていられるが、全国一の宮は未だ誰も書き上げた人がいないとの話を聞き、それではと未熟な腕ではありますが挑戦を始めた次第です。都市部に近い神社は参拝の方も多く、経済的には恵まれていますが、地方の一の宮は、氏子も高齢化で財力も少なく、数百年を経た社殿の荒廃が進んでいる姿が各地でみられ、これは絵を描くよりも記録写真として残す事で何らかのお役に立ちたいと写真撮影を始めた次第です。お蔭で一の宮の写真は、約3万枚近くになっています。画の方は、残念ながら未熟のままであり進歩していませんが、少しましな画は、その一の宮神社に奉納しております。絵馬と同じように社殿の片隅に飾って頂けるとの電話もあり、頑張っている次第です。

本多 英五郎



山城国 賀茂御祖神社 狛犬

一の宮巡拝会近畿ブロック

第七回交流会ご案内

初秋の候、皆様方にはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は一の宮巡拝会の各行事に、ご参加並びにご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本年も来る十一月

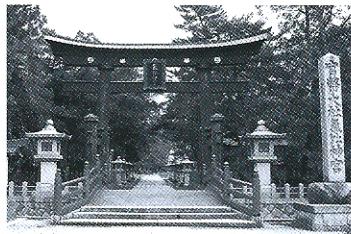
十七日(日)に一の宮巡拝会近畿ブロック交流会を開催する運びとなりましたので、ご案内申し上げます。

今回は左記の通り、北陸道の總鎮守、越前國一の宮「氣比神宮」と、古くから「お多賀さん」の名で親しまれる滋賀県第一の大社「多賀大社」と日本全国に七体ある国宝十一面觀音の中でも最も美しいとされる湖北の渡岸寺觀音堂(向源寺)を参拝します。巡拝会会員の皆様、またお宮さんや歴史などに関心のある方々の情報交換や親睦を深め合う場となれば幸甚です。何卒、皆様お誘いあわせの上ご参加賜りますようお願い申し上げます。

一の宮巡拝会近畿ブロック 高寺 毅

目的地 越前國一の宮氣比神宮・多賀大社・渡岸寺
観音堂(向源寺)
日程 平成二十五年十一月十七日(日)日帰りバス巡拝
集合 JR京都駅八条口バス駐車場 午前九時三十分
解散 JR米原駅・JR京都駅
参加費 一五、〇〇〇円(玉串料・交通費・昼食・飲み物
含む)

コース
 京都駅→多賀大社→敦賀→氣比神宮(正式参拝)→
 渡岸寺觀音堂→米原駅→京都駅



「全国一の宮会」編 公式ガイドブック

◆全国一の宮めぐり

「一の宮神社の神職で構成されている『全国一の宮会』事務局(大和国)の宮大神神社内)で平成二十年十二月に発刊された公式ガイドブック」の宮めぐりは現在第五版となりてあります。巡拝会発行の『全国一の宮巡拝のすすめ』と合せて活用して頂けたら幸いです。



◆旅する一の宮

一の宮めぐりをもつと気軽に旅するガイドブックとして新たに平成二十四年五月一日に発刊されました。「一の宮神社案内と合わせ、各神社周辺の観光スポットを紹介した多彩な情報が満載です。亦、コラムの中には知識編(橋三喜の「一の宮巡詣記」)解説をはじめ歴史(①古代、②中世、③近世)と、旅を楽しもう編では御朱印・

ガイドブックとなつてあります。先の全国一の宮めぐりと共に携帯したいガイドブックとなつています。



尚、各公式ガイドブックは「一の宮神社」と二の宮巡拝会東京事務局で販売しております。一般的の書店では購入することは出来ません。全国の宮神社の社頭でお求め下さい。神社にない場合は、左記の宮巡拝会東京事務局へお問合せ下さい。

頒布価格 各一、〇〇〇円(送料別)

問合せ先 一の宮巡拝会東京事務局
 テレfone 一一一〇〇五五
 東京都台東区三筋一丁目一十一
 (株)アルプス・タカス内

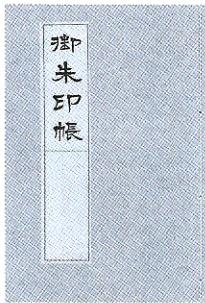
電話〇三一五八三三九〇

一の宮巡拝会本部事務局 創房閑宮(有)内
 〒六六六一〇一兵庫県川西市大和東二丁目二十一
 一の宮巡拝会東京事務局(株)アルプス・タカス内
 〒二一〇〇五五 東京都台東区三筋一丁目一十一
 電話〇三一五八三三九〇
 FAX〇三一三八六五一一三五

入会金及び会費について
 一般維持会員 年会費 三〇〇〇円
 貢助会費 一口三〇〇〇円(何口でも可、随意)
 寄付金 お志し ※常時受け賜ります。薄謝謹呈

ご購入希望者は東京事務局まで

B5版 軽量で携帯に便利、墨書きに優れ、好評の和紙御朱印帳です。



◆斐伊川和紙(奥出雲・手漉き)
 全て白紙版 定価一万三千円(送料別)

●四国和紙・楮箋ヶ峰
 本文全て白紙版 定価六千円(送料別)



◆斐伊川和紙(奥出雲・手漉き)
 一の宮神社名・ご祭神名入り 定価一万五千円(送料別)

●四国和紙・楮箋ヶ峰
 一の宮神社名・ご祭神名入り 定価七千円(送料別)